

2022年
10月号

ニュースレター

Angie

障害児通所支援事業者連絡会が立ち上がり...

2012年から放課後等デイサービスの事業が始まり、現在豊中市では77の事業所があります。新しい事業所も続々と開所していますが、少しずつ淘汰されている感もあります。(2事業所目をオープンする事業所もあります。)

2020年から放課後等デイサービス・児童発達支援の事業所が事業所間の連携や質の向上を目指して連絡会を結成し、今年で3年目です。今年度から、研修会後の受講アンケートの感想を、抜粋してチラシにし、子ども相談課に設置したり、徳洋福祉会はもちろん、各事業所のホームページでも紹介しています。加入事業所が研修を通して何を感じ、どう学んだのか?がご覧いただけます。

10月11日(火)に地域共生センターにおいて、第3回研修会として意見交換会を行いました。保護者対応や学校・他職種との連携、療育内容と3つのグループに分かれて意見交換をしました。

私は療育内容のグループに参加したのですが、「いい療育方法は?」という話になりました。しかし、私は事業所の特徴や通っている子ども達が違うので、ある療育方法がどの事業所に通用するという療育はあまりないと思います。療育方法に子どもを当てはめるのではなく、子どもをよくアセスメントして、子どもに合ったオリジナルの療育プログラムを作るべきだと思いました。

各グループで困りごと等を話し合った後、全体会としてうまくいった事例を3事業所から発表してもらいました。●「く〜る〜」さんがけん玉検定をして子ども達が主役になれる場を作り、その経験を通して苦手な事や初めての事にも挑戦する気持ちが育った話 ●「sakura」さんがお風呂の入浴方法を細分化してディで練習し、自宅にも訪問して入浴の練習をした事例などを発表されました。

特にく〜る〜さんの実践、とても素晴らしかったです。不登校気味の身体に動かしにくさもある子どもが、自分の好きなけん玉をディに持って行ったところから実践は始まっています。指導員がその子どもの得意なところ(強み)を見つけて引き出す、そしてその子の輝ける場を作ることで周りの子ども達から認めてもらい、憧れられる経験をする。その経験を通して自信がつき、初めての事や難しい事にも挑戦するようになったというお話しでした。

毎日の療育で、「今日はどうも行った、でもこの子にとってはどうだったか?」「今、どんな事に興味があるのだろうか?」と、保護者の方からの家庭での様子なども鑑みながら毎日の療育を組み立てています。そんな Angie の実践を11月12日(土)に発表いたします。詳しくは同封のチラシをご覧ください。2年に1度行っている実践報告会、今年も神戸大学の赤木和重先生にお越しいただき、実践を深く掘り下げられたらと思います。お忙しい時間だと思いますが、是非、ご参加ください。

郡 奈美

↑事業者連絡会
第三回研修会の様子



つくろハロウィン



わくわく!どきどき!
完成たのしみ!

集中してるね〜♪

どんな絵がかけたかな

いろんなカボチャがあるね〜!

できあがり〜♪

第8回 みんなで行こう! 秋のキャンプ IN とちのき村



ここ何年間はコロナの影響で日帰りでの実施でしたが、久しぶりに1泊2日で第8回オースタムキャンプを実施することができました。バスに乗り込みいざ出発!わくわくしている子もいれば、不安そうな顔をしている子もいましたが話をしたり歌を歌っていると表情は和らぎ、とちのき村に到着する頃には緊張もほぐれていました。1日目はカレー作りにキャンプファイヤー。2日目はツリーイングを行いました。いつもキャンプを通して感じingことは、キャンプが終わると子どもたちの姿は変わっていきます。それは、子ども達はいつもと違う環境で心を許せる家族がいない中、寂しさや不便さ、目には見えない葛藤をたくさん乗り越え、1人1人が持っている力を大いに発揮し、それを自信へと繋げて行くからです。そして、その経験は、これからいろいろな場面でも糧となると思います。また、アンケートの回答では「キャンプから帰ってきたら、顔がスッキリしていた!いきいきしていた。」「他の学校の子と仲良くなり楽しかった」「楽しかった!またいくわ!」などたくさんの感想をいただきました。最後に、子どもたちを送り出さずだった保護者の皆様、2日間子どもたちの側にいて一緒に楽しみ、不安を自信へ共に変えていってくださったボランティアの皆様。あたたかいサポートのおかげで2日間のキャンプを無事に終えることができました。本当にありがとうございました。

10月はハロウィンの季節。イベントに向けて、クリアフォルダーのバッグを作りました。デザインは2つ。一つは下絵を用意。それをクリアフォルダーに挟み、マジックでなぞります。皆、集中して声も出さずに真剣です。なぞり終ると色を塗ったり、下絵にはない星やハートなどを描いたり、また下絵を挟まず、「自分で描くよ〜」と自由に描き出す子もいました。もう一つは、画用紙にパーツを張り付けます。「ハロウィン」という言葉を聞くとテンションが上がる子ども達。早くやりたいとスタッフにアピール。いつもは一緒に作るのにひとりでカボチャのパーツを取り、目や口を選んで、夢中になって貼り付けていました。出来上がったバッグ、同じものは2つとなく、それぞれに個性が光っています。地域の方々に協力してもらい、バッグを持ってお菓子をもらいに出かけます。たくさんもらえるといいなあ〜!